

ナルク十五周年記念

中山道エコ・ふれあいウォーク

中山道中間点手前の塩尻宿で

「塩尻エコフォーラム&中山道ウォーク」を

中山道歩きエコPR

塩尻 NPO 法人がフォーラム

全国各地で奉仕活動を展開するNPO法人(特定非営利活動法人)のニッポン・アクティブライフ・クラブ(NALC)本部・大阪市)が七日、塩尻市北小野の信州塩尻農業公園・チロルの森で「塩尻エコフォーラム&中山道ウォーク」を開いた。東京の日本橋から京

都府三条大橋に至る旧中山道五百三十三歩を歩いて地球温暖化防止を訴える活動の一環で、市民ら約七十人が関係者によるパネルディスカッションを傍聴した。

エコ・ウォークには延べ一万人がかかわっており、中信地区からは十一人が参加している。車を

使わずに歩くことで二酸化炭素の削減を訴えている。一行は今月初旬に北佐久郡軽井沢町から県内に入った。七日は諏訪郡下諏訪町を出て塩尻峠を越えて塩尻市の洗馬まで歩いた。

NALCの高畑敬一会長は討論で、京都議定書に代わる新しい議定書の

作成と、すべての国が採択することの重要性を強調し、「一人一人ができる活動の積み重ねを世界的に広げて、政府や企業を動かさないといけない」と訴えた。八日は奈良井宿まで行き、その後は鳥居峠を越えて木曾郡内に入り、木曾町や上松町の宿場をたどる。

(長尾浩道)

フォーラムでは、地球温暖化防止のために個人ができる活動を考えた



中山道踏破めざす2グループ

高齢者の生きがいづくりや環境保全に取り組むNPO法人「ナルク」（大阪市）が七日、塩尻市で「塩尻エコフォーラム」を開いた。ナルクは創立十五周年記念事業として東京から京都まで中山道五百三十三キロを踏破する旅を実施中で、中間点に近い

塩尻

塩尻でイベントを企画。環境を考えるパネル討論や植樹に、約百人が参加した。

パネル討論に参加した県環境保全協会長の茅野実さんは「温室効果ガス削減に向け、エネルギーの節約だ

大阪のNPO法人「ナルク」

旅の途中で環境フォーラム

けでは追い付かない。代替エネルギーの開発が必要」と指摘。前連合会長の笹森清さんは「今の日本人は我慢やもつたいたいという精神を忘れてしまった。便利な生活と、地球環境を守ることとの折り合いを付けていかななくては」と述べた。

中山道全体を歩くのは二十二人で、この日は下諏訪宿（諏訪郡下諏訪町）をたち、塩尻市の洗馬宿へ。途中、ナルク会長の高畑敬一さん（79）ら一部がフォーラムに出席した。高畑さんは「中山道を歩くことで『一人一人にできることがある』と示し、環境問題解決へ企業や行政を動かしていきたい」と話した。